



び よういん よるの美容院

いちかわ さ く こ
市川朔久子作

こうだんしゃ
講談社

ろくねんせい なつやす
六年生の夏休みの終わりが、幼なじみのタケルが事故
にあった。横断歩道を渡っているところを呼びとめた自分
のせいだと思いつめたまゆ子は、声が出なくなってしまう。
何とかしてしゃべらせようとする母親ともうまくいかなく
なり、親戚のナオコ先生が営む「ひるま美容院」に身を寄
せることになった。お手伝いをしな
がら過ごす、ゆったりとした毎日。
閉店後の美容院でもらうシャン
プーは、かちかちの小さな石ころの
ようだったまゆ子の心を、少しずつ
ときほぐしていく。

